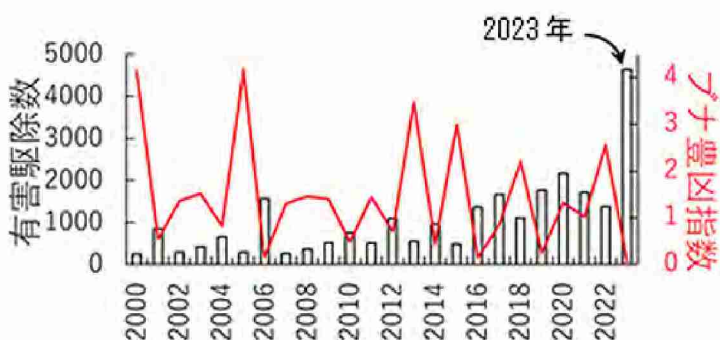


今後もクマの出没にご注意を!

去年は夏から秋にかけて東北各地でツキノワグマ（以下、クマ）の出没や人身被害に関するニュースを連日目にしました。下のグラフにあるとおり、福島県を除いた東北5県では有害駆除数が4,600頭を超えました。これは、過去最多だった2020年の2.1倍にあたります。また、人身被害の発生件数も過去最多となってしまいました。なぜこれほどのクマが出没したのでしょうか。

東北をはじめとする本州各地でクマの個体数が増えており、これに伴い生息域も拡大しています。そのため、我々人間の生活圏とクマの生息域が接するようになり、「ちょっと飛び出すと人里」という状況が出来上がってしまっています。さらに、秋のエサの量も影響します。グラフ中の赤い折れ線は東北森林管理局が発表しているブナの実の付き具合です。2000年や2005年のように豊作年は駆除数（出沒数）が少ないものの、その翌年の凶作年には駆除数が増えます。2023年は2000年以降で最も実なりが悪い凶作だったことがわかります。冬眠に向けて食いだめをする時季にエサ不足に陥ったため、エサを求めて歩き回り、その結果、多くのクマが人里に出没したと考えられます。

昨年ほどの大量出沒は当面はなさそうですが、個体数の増加と分布域の拡大によって、エサが多い年でも出沒する可能性が高い状態にあります。今後も十分な注意が必要です。



ご関心のある方は、森林総合研究所東北支所
(TEL:019-641-2150)へお問合せ下さい。